

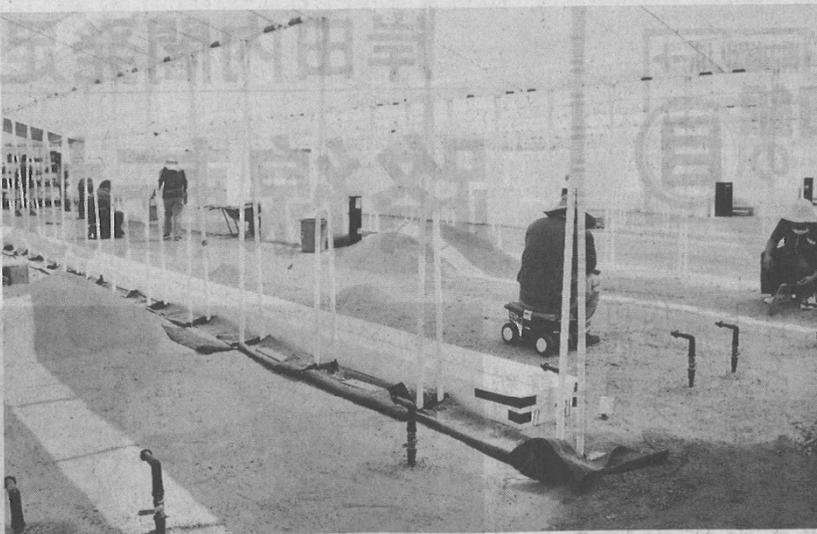
2110-G0053

# 障害者雇用に一役

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、県内の障害者の就職件数が減少する中、市川市柏井町に障害者雇用に取り組む企業向けの貸農園が開園した。障害者の就労支援をしている「エスプールプラス」（東京都千代田区、和田一紀社長）の農園で、障害者の個性や能力を生かした多様性のある働き方を推進したいとしている。

## 市川

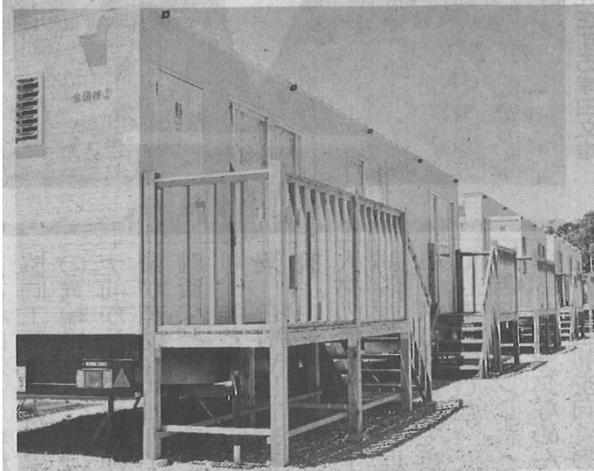
オープンしたのは、ラーハウス11台を設置「ソーシャルファーム」している。わーくはびねす農園（障害者の就職件数は市川）。約1万7千平方メートルの土地に、ビニールハウス6棟が並ぶ屋外型農園で、更衣室や休憩室を備えたトイレは障害者雇用にも影響を与えた。



農園のビニールハウス内で行われている作業風景  
市川市

## コロナ禍就労支援 貸農園オープン

千葉労働局によると、2020年度の障害者の就職件数は12年ぶりに減少。ハローワークへの新規求職申込件数は8222件で前年度比5・4%減で、就職件数は19・6%減の3193件だった。背景にはコロナ禍による時短営業などで求人募集が減ったことや職場見学、実習、就職イベントなど「雇用の機会」が失われたことも影響しているという。同社では、障害者用に整備した企業向けの農園を、障害者を雇用したい企業に貸し出ししている。各企業が雇用する障害者は汚れにくく作業しやすい方法で野菜などを栽培。収穫した野菜は社内で配るなど福利厚生に活用している。市川市の農園は県内で17番目のオープンとなり、100人超の雇用を予定。同社は「都心から最も近い同市に開設した農園で、新たな企業への就職機会の場を創出したい」としている。



農園に設けられている休憩場などのコンテナ